

Chopin Schumann Liszt

三大作曲家の愛と葛藤

2018 2回シリーズ

10/13 (土)

後編

19世紀初頭を代表する作曲家

ショパン、シューマン、リストの大河ドラマを
したたる詩情と炎を持って語り尽くす
国際的ピアニストの2回シリーズ

田崎悦子

piano

Etsko

Tazaki

© G.N.Lowrance

後編 10月13日(土) 1:30 PM 開場 2:00 PM 開演

ショパン : ノクターン
Chopin : Nocturne cis-moll, Lento con gran espressione
: マズルカ集より
: Mazurkas

シューマン : クライスレリアーナ Op.16
Schumann : Kreisleriana Op.16

リスト : 巡礼の年 第2年イタリア全7曲 (ダンテを読んで他)
Liszt : Années de pèlerinage deuxième année "Italie" S.161/R.10 A55

前編 5月26日(土)

ショパン : 幻想ポロネーズ Op.61
Chopin : Polonaise-Fantaisie Op.61

シューマン : ダヴィッド同盟舞曲集 Op.6
Schumann : Davidsbündlertänze, Op.6

リスト : ソナタ 口短調
Liszt : Sonata in B minor

全自由席: 一般5,000円
学生3,000円

会場: 東京文化会館小ホール

主催: Joy of Music 問合せ・マネジメント・チケット取り扱い: カメラータ・トウキョウ
その他チケット取り扱い: 東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650・イープラス

03-5790-5560 www.camerata.co.jp
eplus.jp

ETSKO TAZAKI

マイフレンド・エツコ

私がニューヨークに留学して2年後、1960年、桐朋学園音楽科の後輩である田崎悦子ちゃんもフルブライトの奨学生として渡ってきました。私は船でNYに渡り、お下げ髪の悦ちゃんはプロペラ飛行機で、全くの新しい土地に飛び込んできたのです。その頃の日本はとても貧しく、親からの仕送りなど一切無い中、日々生活するのですら大変でした。悦ちゃんも私も、そんな中を必死に生き抜いてきた戦友同士と言えるでしょう。当時のNYは音楽の黄金時代で、ホロヴィッツ、ルービンシュタインはじめ、カザルス、バーンスタイン……名を挙げたらきりが無いほどの世紀の名演奏家達のつぼでした。悦ちゃんは、目を見張るような好奇心とエネルギーを持ってその中に突入していき、すべての事柄に人一倍の努力を重ねていました。彼女のその後の活躍に、私は折りに触れて接することができましたが、特に20世紀の大指揮者であるショルティに認められ、彼が指揮するシカゴ交響楽団と演奏する機会を得て、見事な演奏をした事は今でも語り伝えられています。私は幸運にもそのコンサートと打ち上げに出席しましたが、ショルティと共演するなどということは目の当たりにしても夢なのではないかと思ってしまうくらい考えられない出来事です。ピアノでは後にも先にも、日本人では悦ちゃんだけではないでしょうか？ 彼女の独特なキャラクターは人々を魅了し、たくさんの恋も失恋もして、私が相談役を務めたこともしばしばでしたが、それらすべてを音楽のエネルギーに変えてしまう特別な才能があったと思います。彼女は文章表現、ファッション、料理と、クリエイティブなことをとても楽しむ人です。また、あれほど失敗を恐れず、物事に正面からぶつかっていく人を私は知りません。その分深く傷を受ける彼女でしたが、七転び八起きというか、また勇敢に立ち上がる姿に、私はいつも驚きと感動の念を抱いていました。30年間NYで真の国際人として生きた後、日本の大自然の中に移り住み、今までに培ったものを表現する今回のシリーズは、彼女の生きた証に他ならないでしょう。日本に住みながら彼女は日本というしがらみを一切もたず、心の中に広い宇宙を持った人だと思えます。私も小澤征爾音楽塾で世界中の人々をつなぎ、若手を育てる仕事に携わっています。その小澤征爾さんと堤剛さん、そして悦ちゃん等を育てた創立時の桐朋学園……パッション溢れる先生方、父兄、そして我々生徒達がいた寺子屋もどきの青空学校……と同じような信念を持って後進の指導をしている彼女の活動、Joy of Musicにも心から声援を送りたいと思います。

志賀佳子(小澤征爾音楽塾、サイトウ・キネン・オーケストラ マネージャー)

世界の反応

“リストピアノソナタの揺らぎなき演奏は圧巻であった!”

ロンドン デイリー・テレグラフ

“パッションとパワー、心の中を探り当てるかのような演奏”

ニューヨークタイムス

“その演奏はホロヴィッツを思い起こさせるものだった”

セントルイス ポスターディスパッチ

プロフィール

1979年、シカゴ交響楽団常任指揮者のゲオルグ・ショルティに発掘され、同オーケストラとバルトーク・ピアノコンチェルト第2番で衝撃的なデビューを飾った田崎悦子は、一躍国際的の檜舞台上がった。



20世紀の大指揮者 ショルティ氏と
1980年シカゴ

その他、これまでに協演した指揮者はサヴァリッシュ、スラットキン、プロムシュテット、小澤征爾など世界一線の指揮者達である。井口秋子氏に師事し、全日本学生音楽コンクールピアノ部門優勝後、桐朋学園音楽部高校を卒業、フルブライト奨学金を得て、ジュリアード音楽院に留学。以後30年間ニューヨークに在住。1970年ブソーニ国際コンクール他で上位入賞し、ヨーロッパ楽壇にデビュー。

1972年カーネギーホールにてニューヨークデビュー。これまでに、シカゴ、セントルイス、ブダペスト、ロッテルダム、スイスロマン他、世界のオーケストラと協演。アメリカ建国200年記念音楽祭においては、若きアメリカのホープとして、ケネディセンターでのリサイタルに選ばれた。又、ルツェルン、マールボロ、アスペン、サイトウ・キネン、草津音楽祭などの国際フェスティバルに出演。

日本ではN響をはじめ多くのオーケストラと協演。

ソロでは“三大作曲家の遺言”(1997文化庁芸術祭参加作品)、2006年～2009年6回シリーズ「田崎悦子ピアノ大全集」では、バッハより21世紀までの全ピアノ史を縦断するという前代未聞の企画を完奏、「一音一音に自身の人生そのものを投影させるかのような演奏は、聴き手の心の奥底まで鋭くえぐ

り出す」(日本経済新聞)と絶賛され、「日本ピアノ界の金字塔」といわれるイベントとなった。

2015年には東京文化会館にて、ブラームス小品集、ベートーベンピアノソナタ30番、31番、32番、シューベルト遺作の3大ソナタの3人の最期のピアノ作品を3回に渡って演奏する“三大作曲家の遺言”シリーズを再演、そのヴァイタリティーと深みに満ちた演奏は「NHK BS クラシック倶楽部」で複数回放送される。

米ワシントン大学、東京音楽大学、桐朋学園大学音楽部、及び同大学院、それぞれ教授特任教授を歴任。

2002年より八ヶ岳ピアノ公開合宿「Joy of Music」シリーズ「Joy of Chamber Music」「Joy of Music 40+」総合監督。

公式ウェブサイト「ピアニスト田崎悦子の世界」 www.etsko.jp

DISCOGRAPHY

- ・バッハ : パルティータ第4番&第6番
- ・モーツァルト : ファンタジーK.475 in C minor (レコード芸術特選盤)
- ・シューベルト : ピアノソナタ第20番&即興曲D.935
- ・シューベルト : ピアノソナタ第21番&即興曲D.899
- ・シューマン : 子供の情景&ダヴィッド同盟舞曲集・フランク:前奏曲、コラールとフーガ
- ・シューベルト : ピアノソナタ第19番&楽興の時
- ・リスト : ピアノソナタ・シューマン:クライスレリアーナ
- ・バッハ : パルティータ第6番・シューベルト:ピアノソナタ第17番(コンサートライブ)
- 以上、カメラータ・トウキョウより発売中
- ・ショパンファンタジア (レコード芸術特選盤)
- ・ドビュッシー&リスト (レコード芸術特選盤)
- ・「3大作曲家の遺言シリーズ」全4枚セット (レコード芸術特選盤)
- ・VoL1 ブラームスOP.117、ベートーヴェンOP.109、シューベルトD.958
- ・VoL2 ブラームスOP.118、ベートーヴェンOp.110、シューベルトD.959
- ・VoL3 ブラームスOP.119、ベートーヴェンOP.111、シューベルトD.960
- 以上、若林工房より発売中www.waka-kb.com